＼ママライター／

西本さん

槙田さん

ミハラシニア編集室ママライター（三原歴7年と16年）が行く

未来へつなぐ大切な祭

コロナ禍で祭りの中止が相次ぎますが、祭りに込められた意義や思いは途切れることなく受け継いでいきたい！ 市民ママライターが、市内の祭り関係者を直撃取材していきます。

Vol.2 亥の子

開催時期：11月最初の亥の日（今年は11日）に近い日曜日

特徴：子どもたちが家を訪ね無病息災や家内安全を願う行事（田野浦地区）

子どもたちが運営 町内を回る秋の行事

8人ほどの子どもたちが、「♪いのこさんというひとは～」という元気な歌声とともに、ひもでつながれた10kg以上ある「石」を庭につき、地面に三つの円状の跡をつけます。地区の小中学生総勢30人が参加して、700軒を超える家を訪ねるので、最初はうろ覚えの歌も、お昼ごろにはすっかり覚えています。何十軒も回ると疲れて座り込んでしまいたくなるそうです。

※今年は中止。

130年以上続く 時代とともに変化

行事の起源は不明ですが、約130年前、「田野浦村」だったころには始まっており、男子による秋の行事でした。今では、少子化によるつき手不足と、時代の流れによって女子も加わるようになり、小学3年生から中学生までが参加しています。回った家から受け取るお礼は、参加した子どもたちで分け合うそうです。

参加した子どもたちも、自分の子どもへ伝統を伝え、亥の子を続けて行って欲しいです。
左：町内会長の**木原一充**さん
右：子ども育成会長の**宮岡将夫**さん

「三原市公式note」で記事掲載中！

Hello! MIHARA

三原市初！ハワイ出身の国際交流員が10月11日に着任しました。

国際交流員
横川あいさん

三原の仲間の一員としてお手伝いをしたい！

今回は私が国際交流員になろうと思ったきっかけを書きたいと思います。私は11歳の時に日本からアメリカに引っ越しました。当時は英語がまったく話せず、アメリカの文化なども一から学びました。その時に助けとなったのが、私の周りにいた人たちです。コミュニティーの一員として接してくれたおかげで、私のアメリカでの生活がより楽しくなりました。

国際交流員になって、自分が助けられたように、慣れない海外生活で困ってる人の手助けができればと思いました。外国から来た人たちが、もし三原での生活に困っていたら、ぜひ力になりたいです。そして、私も三原というコミュニティーの一員になれたらうれしいです。

▲任用通知書を受け取った横川さん（右）

●外国人相談窓口（市役所本庁4階）
問経営企画課（TEL 0848-67-6270
FAX 0848-64-7101）

市長×サポカー

生活の安全、みんなで守っていきましょう

11月の広報みはらの特集は、サポカー補助金制度について、紹介しました。近年、高齢者の事故が増加しているため、「可能な限りの対策を行い、事故を減らしたい」という思いから掲載しました。

私も、アクセルの踏み間違いの事故に、遭遇したことがあります。ちょっとした不注意によって、事故は起きるものです。ぜひ、ご自身やご家族の車など、サポカー導入の検討をお願いします。

また、よく指摘を受けるのが、運転免許証返納の問題です。現実的に、免許返納は簡単ではないと思いますが、運転に不安がある人は、ぜひ返納を検討してはいかがでしょうか。

市としても、なるべく移動手段に困らないように、デマンド型乗合タクシーの運行などの取り組みを広げていきたいと考えています。

高齢化によって、さまざまな課題が深刻化しています。市民の皆さんが安心して三原で暮らせるよう、生活に寄り添い、対策を進めていきたいと思います。